

《薬局サーベイランスコメント》

『第3週のインフルエンザの推定患者数は薬局サーベイランスが始まって以来の最多数を更新、第4週（1月22日～28日）は更に患者数が増加する事が予想される。インフルエンザの流行には嚴重な警戒が必要』

2018年1月23日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

今シーズン（2017/2018年シーズン）の2018年第3週（1月15日～21日）の1週間当たりのインフルエンザの推定患者数は前週の値（1,003,935）を大幅に上回って1,775,796となり、2009年に薬局サーベイランスが開始して以来の最多数を更新しました（図1）。週明けの月曜日（2018年1月22日）の推定患者数は404,925と今シーズンの1日当たりの推定患者数の最多数を上回っており、第4週（1月22日～28日）の患者数は更に増加する可能性が高いと思われます。

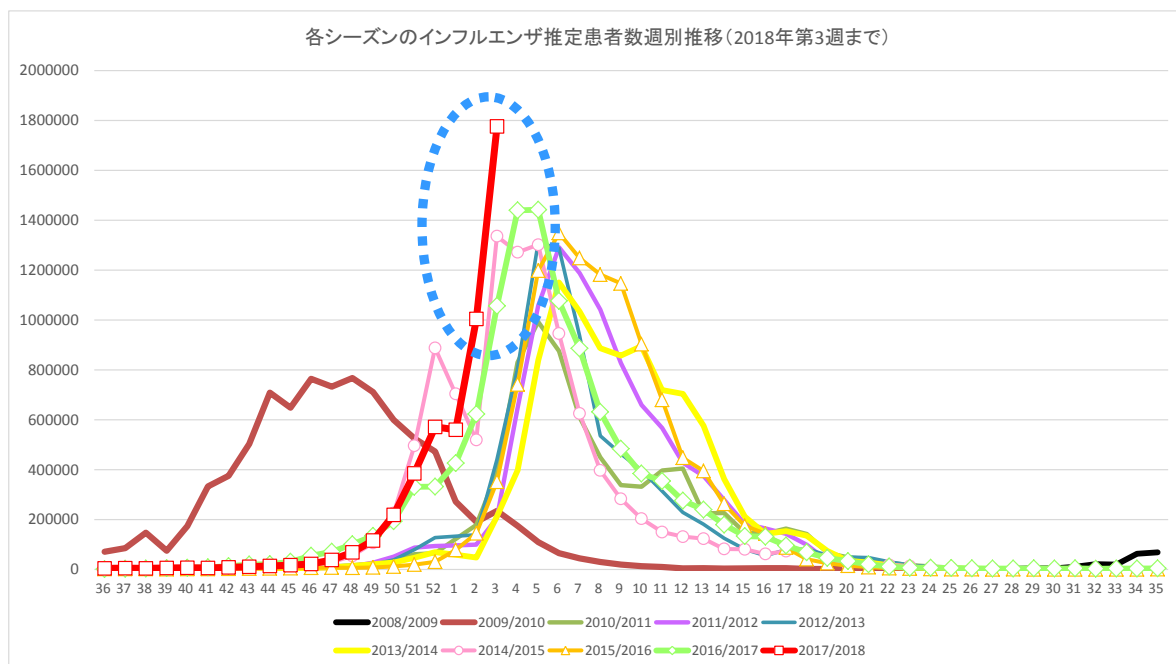


図1. 過去7シーズンと今シーズン（2017/2018年シーズン）の第36～第3週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移（2018年第3週の推定患者数= 1,775,796）

各都道府県別の第3週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると福井県、大分県、三重県、熊本県、鹿児島県、静岡県、宮崎県、奈良県、高知県、福岡県、岐阜県となっていて、47都道府県全てにおいて増加が見られました。また、中部以西に全

国平均値を上回っている地域が多くなっています。

2017年第36週から2018年第3週までの累積の推定患者数は4,843,001であり、2017年10月1日現在の人口統計を元にした累積罹患率は3.82%でした。年齢群別での累積罹患率は5～9歳(15.97%)、10～14歳(11.12%)、0～4歳(8.83%)、15～19歳(5.49%)、40～49歳(3.52%)、30～39歳(3.43%)、20～29歳(3.09%)、50～59歳、60～69歳、70歳以上の順となっていて(図2)、特に14歳以下の年齢層の患者数の急増が目立ちます。

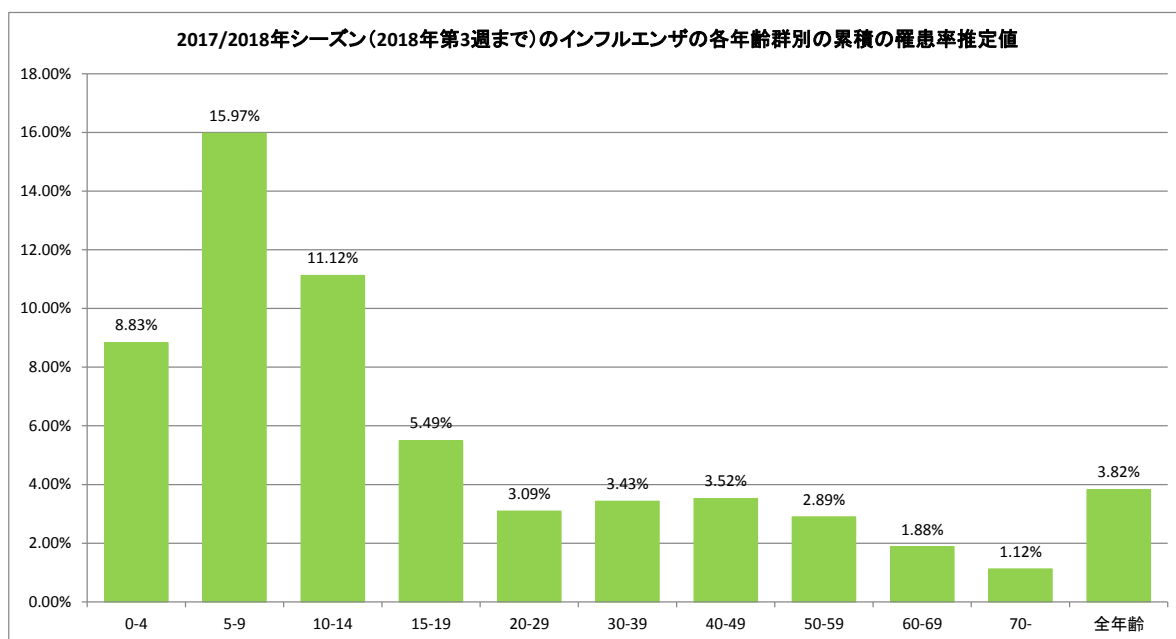


図2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値(2017年第36～2018年第3週、累積推定患者数=4,843,001)

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr/510-surveillance/iasr/graphs/1532-iasrgv.html>)によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス(1,625検体解析)は、A/H1pdm 51.4%、B型 29.5%、A/H3(A香港)亜型が19.0%の順となっていて、AH1pdmが約半数を占めていることは変わりませんが、B型(特に山形系統)の割合が増加してきています。

第3週の推定患者数は約180万人と、薬局サーベイランスが始まって以来の最多数を更新し、今シーズンのインフルエンザは既に大きな流行となっていますが、今週(第4週:1月22日～28日)は更に患者数が増加する事が予想されます。しばらくはインフルエンザの流行に厳重な警戒が必要です。